



特集 福島校長先生にインタビュー ..... 2・3

シリーズ 卒業を控えて ..... 4・5

シリーズ 人物・いま ..... 6・7

有明高専創立50周年記念式典 ..... 8

シンガポール・ポリテクニク校学生来校／出前授業 ..... 9

シリーズ 研究室訪問 ..... 10

## 目次

シリーズ 企業訪問 ..... 11

ロボコン／プロコン／専攻科研修旅行

デザコン／冬季球技大会 ..... 12・13

新学生会／学生会役員研修 ..... 14

岱明寮だより ..... 15

トピックス／編集後記 ..... 16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年 - 組)

平成25年4月に着任された福島校長先生に、約1年間の本校の印象やこれからの構想などを学生会長の堤大智君(4A)、副会長の中田竣君(4I)、今村匠君(3M)がインタビューしました。



**堤** 校長先生の本校着任前の仕事について教えてください。



**校長** 着任する前は大学評価・学位授与機構に勤務していました。ここでは2つの大きな仕事があります。その仕事は、大学や高専に対する第三者評価と高専専攻科修了者に対する学位授与です。平成24年度に有明高専が評価の対象になっていました。地域貢献活動、高い就職

率、教育成果がきちんとあがっていることなど、大変良い評価結果でした。

学位授与の仕事については、専攻科修了生に対して学位を現状よりも簡易に出せるように検討をしていました。小論文試験をなくすような制度改正を進めた結果、平成26年度専攻科入学生から実施できるようになりました。

**堤** 校長先生は本校に着任される前も高専に関わる仕事をされていましたが、本校に着任される前の高専に対する印象はどのようなものでしたか。

**校長** 評価の際に訪問調査として高専に行きます。その際に、高専は大学に比べしっかりとした教育が行われていて、5年間の中で教育成果がかなりあがっており、社会からも高い評価を得ているという印象を持っていました。

**堤** 本校に着任されて約1年が経過しますが、本校に対してどのような印象をお持ちですか。

**校長** 教員、学生とも想像していた以上に頑張っていると思いました。先生方は、教育・研究・学生指導・部活動・寮の宿日直等、多忙な中、よく頑張っています。

最も印象に残っているのは体育祭における応援団の見事な演舞です。学生のパワーを感じました。

**堤** これまでの仕事と現在の仕事で大きく異なることは何でしょうか。

**校長** これまでは、高専全体のレベルを上げるために評価の仕事をしていました。外から見てどのようにすれば高専が良くなるか、ということで仕事をしてきました。校長として実際に中に入って見るのと外から見るのとでは大いに違います。

これまではどうすれば良くなるのか、と客観的に考えてきましたが、現在では理屈ばかりではしょうがなく、実際に良くな

っていかないと学生や教員が困ります。現状から何ができるのか、判断していかなければなりません。校長として責任をもって実際に良くなるようにしていくつもりです。

**堤** 苦労は感じますか。

**校長** 予算的な制約をはじめ様々な制約の中で本校を良くするにはどうすればよいのかを考えています。すぐにはできないことが多いので先生方をはじめ皆さんと協議して進めていくことにしています。

**中田** 校長先生の日常的な仕事とはどのようなものですか。

**校長** 学校の管理運営に関わる仕事です。その際に学校の責任者として常に考えていることは、学校内外の接点として仕事をしていくことです。高専機構、地域社会、地域企業等からの情報や話が校長に集まります。教育界の動向を見なければいけません。そういう状況の中で、どうしたら良いのか、また、いろいろな課題ができた時にどうやって解決していくのか、先生方と協議し、判断をしなければいけません。そのリーダーシップをとっていくのが校長の仕事です。

また、先生方の研究活動の手助けとか、予算の配分とか、規則をつくることとか、様々です。

学生からはあまり見えない仕事をしていますが、学生のことを考えて仕事をしています。

**中田** 今後の取り組みとしてどのようなことをお考えですか。

**校長** 平成25年に本校は創立50周年を迎えました。その50年間は15歳人口が増えていました。今後、15歳人口が減っていく中で教育の在り方を考えていかなければなりません。また、社会のニーズの変化に対応しなければいけないし、グローバル化の中で活躍できる学生の育成に関しても考えていかなければいけません。

入学した学生がなるべく多く卒業してほしいので留年対策も考えていかなければなりません。

**中田** 冬休み前の全校集会で、留学の支援をしていきたいというお話をされていましたが、学生の留学についてどのような取り組みをお考えですか。

**校長** 留学する機会を増やしたいと考えています。現在はシ





ンガポールポリテク校や遼寧石油化工大学と協定を結んでいますが、インドネシアやマレーシア等、東南アジアの大学との協定校を増やす計画でいます。また、基金を設けて学生の国際交流活動の支援をしていきたいと考えています。その他、英語の能力を底上げしていきたいと思っています。海外で活躍する上ではある程度の英語の能力が必要ですから。

**堤** 私は学生会長になり、剣道部で部長をしています。校長先生は本校の責任者として心がけていることはございますか。

**校長** どのトップでもそうでしょうか、明確な目標を示すことが大切です。私の場合、社会的に求められていることを把握し、それに基づいた私自身の考え方を整理して、それを先生方へ提示し、共有してもらうことが大事だと考えています。先生方と議論して先生方からの提案や意見で取り入れられるものは取り入れ、前例にとらわれずに本校が良くなるように改善していきたいと考えています。

また、学生の意見は学生会を通して聞かせてほしいと思います。



**今村** これまでの話とは変わりますが、校長先生のご趣味は何でしょうか。

**校長** 運動ではテニスをするのを楽しみとしています。教職員の同好会に所属しています。読書は歴史小説や推理小説を好んで読んでいます。最近は企業の経営者が書かれた本も読

んでいます。

ところで、皆さんは時間がないのであまり読書はしないのですか。

**堤** 私は読書が好きで、いろいろなジャンルの本を読みます。

**今村** 私は教科書を読むので精一杯です。

**中田** 私は海外の小説が好きです。

**今村** 校長先生の学生時代のことをお聞きしたいのですが、校長先生は大学ではどのような学生生活を送っていらっしゃ

いましたか。

**校長** 最初、理科系に入りました。将来、科学者等を目指していましたが、学術や科学を裏から支え、振興させる仕事に興味を持つようになり、そういう仕事に従事したいと思い、文科系に進路を変更しました。そのため結構、勉強に追われていました。

**堤** 学校における普段の生活で校長先生を見かけることはあまりなく、全校集会や行事等でしか見かけません。校長先生の仕事ではあまり学生と接する機会は少ないと思いますが、学生に望むことは何でしょうか。

**校長** これから各クラスでの授業を見る計画を持っています。

学生は具体的な目標を持つことが勉強をする際の励みになります。それがないと、情報化社会の中で無数の情報に翻弄されて自分を見失ってしまうでしょう。将来の目標を持って、それに向かって日々の努力を継続してほしいと思います。

**堤** 最後の質問ですが、50周年を迎えた有明高専にとって、51年目は新たなスタートの年だと思えます。学生会もそのような気持ちで活動していきたいと考えています。学生会にはどのようなことを期待されていますか。

**校長** 前学生会の皆さんはよく頑張っていたと思います。学生会の仕事は大変だと思いますが、今の学生会の皆さんにも頑張っていたいだきたいと思います。特に平成26年度には高専祭があります。多くの学生が楽しみにしている高専祭を成功させていただきたいと思います。そのためには、学生会執行部とその他の学生会の皆さん、その他多くの学生との意思疎通をしっかりとることが大事です。その際にきちっとしたルールを大切に意志疎通をはかってもらいたいと思います。思い出に残る高専祭になるように頑張ってください。また、意見や要望があれば伝えてください。

**堤** 本日はお忙しいところありがとうございました。校長先生とこのようにお話をさせていただいて本当に良かったと思います。



# シリーズ 卒業を控えて



卒業を控えた5年生の皆さんに、思い出とこれからの抱負を語っていただきました。(H25.12.16)

M 木下 陽平 (野球部/トヨタ自動車)

E 古賀 翔太 (団長/東芝電力システム社)

I 東 優子 (弓道部・体育祭実行委員長・文化局長/  
NTTフィールドテクノ)

C 松本 光 (ボランティア同好会/九州大学進学)

A 馬場 舞子 (写真部/専攻科進学)

司会:G科 田中 彰則

**司会** 本日は、年末の忙しい中に集まっていただき、ありがとうございます。まず、皆さんの名前・学科・課外活動・進路を教えてください(上記の通り)。それでは、早速ですが、高専生活の中で印象に残っていることを聞かせてください。



M 木下君

**M木下** 部活です。5年間、部活動を続けたのですが、途中でけがをしてしまい、試合に出ることができず、イライラして荒れていた時期がありました。その時、周りの仲間たちが見放さずにくれたおかげで、無事に復帰することができました。

**司会** それはいつ頃のことですか？

**M木下** 2年生の終わり頃のことで、腰の疲労骨折でした。2カ月間位はコルセットをしていましたね。みんなのおかげで、3年生の時に高体連の試合には出場することができましたし、その後、高専大会にも出場することができました。

**E古賀** 特にないですけど……。普段の学校生活が一番の思い出ですかね。

**司会** 普段の学校生活の中のどんな所が？

**E古賀** 友達とふざけたり遊んだりしていた時ですね。

**I東** 団長は大変だった？

**E古賀** そこそこ。そんなにキツイことはなかったし、団長を経験できたことは自分にとって良かったです。

**司会** 団長を務めているし、4年生の時はクラス委員長をやっていたと聞いていますが、人をまとめる上で難しかった所等はないですか？

**E古賀** まとめた記憶は無いので(笑)。体育祭のときも周りがサポートしてくれたので大変ではなかったですね。

**司会** 4年生で団長に指名された時はどんな気持ちでしたか？

**E古賀** 予期していなかったので、不安や戸惑いが大きかったです。最初はそうでしたがなんとか最後まで役を務めることができました。



田中

**司会** 阿蘇研で1年生を指導するときに気をつけたことはありますか？

**E古賀** いや、特には(笑)。ただ、1年生のことはかわいく思いましたよ。弟、妹のような感じですかね。

**I東** 私の思い出は学生会活動・役員を沢山やってきたことです。1年生のときはクラス副委員長、2～5年では委員長を務めました。また、3年生からは学生会に入り、文化局で頑張りました。5年次には文化局長を務めました。色々な所で多くの経験ができ、とても楽しかったです。

**司会** 体育祭実行委員長はとても大変な仕事だったと思いますが、これは自分から立候補したのですか？

**I東** そうですね、元々は別の人の方が候補に挙がっていたのですが、その人が会計に移ったこと、そして、実行委員長が女子になることで、新しく楽しい体育祭が実現できるのではないかと考えて立候補し、やることになりました。

**司会** 実行委員長として、気をつけたことや、女子ということで大変

だったこと等はありましたか？

**I東** いえ。むしろ周りが気にかけてくれて。私がミスした時なんかも、他の学生会役員の人達が、「大丈夫?」等の優しい言葉をかけてくれました。本当は私の方が気遣いをすべきだったんですけど……。みんなから助けられました。

**司会** 弓道部にも入っていますよね。部活動と学生会活動の両立は難しくなかったですか？

**I東** 最後の方は学生会活動を優先してしまって部活動をさぼりがちになってしまいました。ただ、弓道はこれからも続けていきたいと思っています。



C 松本君

**C松本** 僕も木下君と同じで部活です。1年生の時、友達に誘われて当時のボランティア愛好会(現在は同好会)に入りました。最初は消極的だったのですが、活動に参加するうちに、ボランティアってそんなに堅苦しいものではなくて楽しいものだなあ、と純粋に思うことができました。

それが次にも参加したいという気持ちになって積極的に活動を行うようになったんです。それを見てくれていた先輩たちに信頼されて、3年生の時に次期部長に指名されました。

**司会** 活動の中で地域の方と沢山のふれあいがあったと思います。特に印象深かったことは？

**C松本** 近くの駿馬南地区の人情ネットワークという団体が主催する地区のイベントで、自分たちの企画枠をいただき、化学の豆知識を披露したりゲームやクイズ大会を実施したりしたことです。依頼を単にこなすのではなく、自分たちが企画して、みんなに楽しんでもらえたことが印象に残っています。評判も良く、来年度もお願いしますと言われたんですよ。

**司会** 確か、ボランティア同好会は大きな賞も貰っていましたよね？

**C松本** それはボランティア・スピリット賞のことですね。日本全国のボランティア活動をしている団体が活動を全国に発信するために設けられた賞で、全国の表彰式では各団体が活動を発表したりもします。2回受賞したのですが、2回目には九州ブロック賞を貰って、3年生の部員が全国発表もしました。

**A馬場** 私は体育祭が印象に残っています。マスコットのパートナーを務めました。夏休みには卒研の都合等のために、自分が十分に活動できなかったのですが、周りのみんなが助けられました。衣装作りがなかなか終わらずに焦ったりもしましたが、下級生もダンスの練習など頑張ってくれたし、本番にもぎやかに楽しくやることができました。下級生と交流を持てたことも良かったですね。

**司会** 馬場さんは写真部の部長も務めていますよね。写真部の活動はどうでしたか？

**A馬場** 週に1回程度の活動で、そんなに活動はしていませんでしたが、体育祭や高専祭、球技大会等では沢山の写真を撮りました。

**I東** 今年度の体育祭ポスターは写真部で作ってもらったんですよ！

**A馬場** 忘れてました(笑)。5年生部員で意見を出し合って作りました。昔の写真のネタを発掘してきて使いました。

**I東** テーマにびったりでした!

**司会** 写真部が作ったんですね、知りませんでした。

みなさん印象に残った出来事ということで、比較的、良い思い出を話していただいたのですが、次に、失敗したことや悔いの残ることなどを聞かせていただけますか?

**M木下** 言い出したらきりがないな(皆笑)。

部活でけがをしたときにすごく荒れてしまったのですが、当時の自分はすごく子供だったなぁと反省しています。あんなに酷い態度を取りながらも、みんなよく見放さずにいてくれたなぁ。あと、5年間、何も委員等の役をやっていないことで困ったことがありました。就職のために履歴書を書く際、何も書くことができなくて、結局、中学生のときのクラス役員名を書くはめになってしまったんですよ。何か1つでもいいからクラス委員を務めておけば良かったと後悔しました。

**E古賀** そうですね、部活をやっておけば良かったと思いますね。

**司会** なぜですか?

**E古賀** いや、履歴書を書くときに部活のことを書けなくて。中学のときにはサッカー部だったんですけど、けがをしてしまったので、高専では入りませんでした。何でもいから、5年間続けられる部活に入っておけば良かったですね。また、心残りというか、英語をもっと勉強しておけば良かったです。就職活動をしていたときも、企業の方から「英語を使うからよく勉強しておくように」と言われました。卒研でも英語を使うことがありますか、自分の英語力の低さを嘆いています。



I東さん

**I東** 私は、勉強をしっかりとやっておけば良かったと後悔しています。毎年、留年の危機にさらされながら進級してきたので(笑)。友達からも心配されていました。ちゃんと卒業できるように、最後のテストは頑張ります。あと、車の免許をオートマ限定で取ったのですが、マニュアルで取っておけば良かったです。実は、就職先で中型免許を取らないといけないんですよ。

**C本本** 僕は、先輩たちともっと交流をしておけば良かったと思っています。低学年の時は、上級生と話したことがほとんどありませんでした。4・5年次に、企業に就職した先輩方の話を聞く機会があるのですが、その方たちの高専での様子を知っていれば、就職後にどのように変化・成長したのかを比較することができますからね。

**A馬場** 私も、勉強で・・・、TOEICですかね。点数が5点足りなくて、専攻科推薦試験を受けることができませんでした。あと1問解けていれば良かったんですよ!ショックでした。4年生のときに初めてTOEIC試験を受けたのですが3年生の頃から受けておけば良かったと思います。専門(建築)の製図・設計などの課題もぎりぎり提出していて、締切り直前に、徹夜で仕上げ提出ということもよくありました。もっとちゃんとやっておけば良かったです。

**司会** では次に、各学科の自慢を聞かせてください。他の学科にない特徴や入学して良かったと思う所などでもいいです。

**E古賀** E科は求人倍率が一番高いです!入試倍率は低いんですけど(笑)。1社目で合格できたし、就職面でさほど苦労はしませんでした。

**司会** それは先輩たちが就職先で十分に活躍していて、企業の評価が高いからかもしれませんね。

**E古賀** そうですね。

**C本本** C科は卒研の評価が厳しい学科です。先輩方もおっしゃっていたのですが、それでかなり鍛えられます。できが悪い時は、先生方の納得がいくまで再発表させられるんですよ。でも、そのおかげで、ある程度の水準まで達した結果を残すことができます。企業からも、C科卒の学生はプレゼンの能力が高い、考察力がある等の評価を貰っています。これが、よかったと思える所、かな。

**I東** うーん、何があるかな?自分が就職したかった所に就職できたことですかね。最初は就職活動がうまくいかず落ち込んでいました。3社に落ちて、「もう嫌だ」と思っていたんです。その時、学科長の

先生が私の希望している職種でいい会社を紹介してくれました。そして運よく就職できました。えーっと、あとI科の専門棟は自動ドアで、エレベータ付、建物の高さも一番ですね(皆笑)。私の研究室は5階です!

**M木下** M科は「やるときはやる」という雰囲気をもった学科というところ。主に、体育祭や球技大会などの運動系での話ですけど(笑)。皆で仲良く練習も一生懸命にやりますね。

**A馬場** A科は・・・、楽しいです!研修旅行で色々な建物を見たり、現場で職人さんの作業を見てすごいなと思ったり。色々なことを見ることができて楽しいですね。

**司会** 中学の頃から建築に興味があったのですか?

**A馬場** そんなことはないですけど。なりゆきで建築学科に入ったのですが(笑)、授業を受けているうちに好きになりました。これも建築学科に入って良かったことですね。

**司会** では次に、高専での5年間で自分が成長したと思う所と、それを踏まえて後輩へのメッセージをお願いします。

**M木下** 試験勉強などを一生懸命やって集中力がつきました。後輩へは「勉強は計画的に」。あとは、「英語を勉強しなさい」。

**E古賀** 具体的なことはないですが、団長等を務めて、人間的に成長できたのかな、と。でっかい経験でした。勉強は何とかなるので「人との繋がりを大切に」。

**I東** 役員を沢山やったので、行動力がつきました。50周年式典の司会も務めましたし、体育祭実行委員長など、様々な貴重な経験をさせてもらった5年間だったなぁと思います。何かの機会に出会った時、やれないと思うのではなく、「学生のうちにできることは体験して」。

**C本本** 部活などを通してコミュニケーション能力がつきました。人前で話すこと、自分の考えを伝えることは大切だと思います。混合学級、部活などもありますし、先生方も親身になってくれますので、「自分から働きかけて色々な人と接してください」。

**A馬場** 元々、人前に出ることが苦手だったのですが、体育祭でパーティーリーダーを務め、人をまとめる経験を通して成長することができました。4・5年生になると忙しくなるので「下級生のときは学校生活を楽しんで」。

**司会** 最後に、人生の目標を聞かせてください。卒業後にすぐにやりたいことでもいいです。

**I東** 楽しく生きることです。笑って死にたいです(笑)。あと、卒業後はすぐに合気道を始めたいです。

**E古賀** 普通に働いて、結婚して、幸せな家庭を作りたいです(皆笑)。26歳で結婚したいです。卒業後は、ヨーロッパに行つて本場のサッカーを見たいですね。

**M木下** 幸せになりたいです。いつかは、TE(チーフエンジニア)になって車を作りたいです。

**C本本** 研究者になることが目標です。取りあえずは大学に行つて、キャンパスライフを楽しみたいです(笑)。

**A馬場** 専攻科を卒業後、大学院に行きたいです。その後、構造設計に関係した就職ができたらいいなと思っています。

**司会** 今日は、色々な話を聞かせていただきありがとうございます。何か言い残したことがあればどうぞ。

**I東** 私自身、学生会でいい経験ができたので、後輩のみなさんも、部活、学生会、何でもいので活動をしてください。先生とも仲良く出来ますよ。

**E古賀** まあ、頑張ってください。

**C本本** 5年間の高専生活を楽しんでください。その後の選択肢(就職・進学先)も沢山あります。

**M木下** 仲良くやってください。

**A馬場** どうにかなるから。



A馬場さん



E古賀君

## 退職教職員

平成26年3月をもって退職される6名の教職員に、次の3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは？ Q2 高専あるいは学生に望まれることは？ Q3 今後のことについて一言

一般教育科 教授  
塚本 邦重

- A1 思い出といえば有りすぎて困ってしまいます。一つだけ挙げるとすれば、やはり体育を専門としてきましたので剣道の全国高専体育大会で連覇できたことです。まだ十分な指導もできていない状態にもかかわらず、彼らは全国の頂点に立ち、そして有明高専剣道部の歴史の一ページを作ってくれました。その歴史の中の一員になれたことです。
- A2 自然体であれ  
今の時代は無理をしなければならないことが多々あります。特に若いうちは自分の存在とか地位の確立とかで必要以上に無理をすることがあるとおもいます。早く認めてもらうことに神経が集中すれば本質が薄れてくるのではないのでしょうか。焦りは禁物。あるがままの自分を見失わないようにしてください。
- A3 趣味のない私は、休日となれば体を休めることが趣味のようなものでした。これからはサイクリングにドライブにカラオケに・・・と楽しみを見つけて余生を送ろうと思います。しばらくは有明高専にお世話になります。

一般教育科 教授  
安部 規子

- A1 一つは大牟田という町への愛着です。近い将来三池炭鉱関連施設が世界遺産に登録され、地域の人々の活動が興ることを楽しみにしています。もう一つは、本校で国際交流プログラムが立ち上げられ発展していることです。シンガポール・ポリテクニクの学生さんたちと接して、私自身多くのことを学びました。最後に、弓道部と毎年行った西日本高専弓道大会も忘れられません。試合結果と選手の笑顔や涙、そして高知の桂浜や鳴門の渦潮が思い出されます。
- A2 英語ができる技術者に育ってください。チャンスがあればどんどん海外に出て行って、言葉が通じないもどかしさや、拙い言葉でも心が通じた時のうれしさを経験しながら、地道に英語学習を続けてほしいです。きっとTOEICのスコアも上がります。
- A3 久留米高専に勤務します。すぐ近くですので、また会うことがあると思います。これからもよろしく願います。

機械工学科 助教  
福永 道彦

- A1 ロボコン。華やかさや注目度の高さから「学校の宣伝ツール」として捉えられる向きがあるが、第一義には「学生の成長の場」として評価すべきであり、そのために好適な活動と考える。着任後初めて担当した卒研生（のち専攻科生）がロボコン部員で、「解析はよくわからないので、とりあえず何か装置作ってみましょう」という発想が強かったのは、一緒に研究していて学ぶところがあった。これは、高専生が一般に持つ強みであり弱みでもあるかもしれない。
- A2 <高専> 高校との差別化。物事をやめる・縮小する決断。国立高専機構が適切・効率的・合理的に機能すること。  
<学生> 「教わる」のではなく「学ぶ」こと。短期的・中期的な目標を持ち続けること。基礎学力（つまり数学と英語）の向上。
- A3 今後とも工学教育であるが、特に研究室ベースでの研究教育に力を入れたい。

事務部長  
田島 英三郎

- A1 有明高専には新規採用後8年間及び事務部長として3年間在籍しておりましたが、平成25年に創立50周年記念事業を無事実施できたことが一番の思い出です。
- A2 国際的に通用する技術者の養成が必要でありますので、学生諸君には、海外研修・国際学会発表等に積極的に参加されることを望みます。
- A3 無事に定年を迎えることができたのは、教職員・学生の協力があつたからこそだと思います。今後は感謝と思いやりを忘れず、有明高専を見守っていききたいと思います。

総務課 施設係長  
安部 準次

- A1 有明高専の建物は、廊下でつながっていて雨の日も快適で良いです。主要な建物は、改修および耐震改修済みで安心で良いです。学生のあいさつは、元気があって良いです。桜の花の散る様子が特に印象に残っています。季節の移り変わりを感じます。
- A2 一生懸命、ただひたすら頑張ってください。道元禅師の言葉「万巻の経典を読んでも、釈尊の真の教えを得ることはできません。そのためには、只管打座、ただひたすら座だけです。」
- A3 子供の成長を見守りながら過ごします。歴史小説に興味があるので読みたいです。モーツァルトを聞いて過ごします。庭の手入れをして草木を植えて花を咲かせたいです。「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえてすずしかりけり」

総務課 人事労務係  
前川 久美子

- A1 昭和54年より図書館3階の「電子計算機室（現情報処理センター）」に長いこと居座っておりました。その頃は学生たちとの触れあいも多く、大型計算機に囲まれプログラム言語と一緒に勉強しました。楽しい思い出です。学生や先生たちが集まって賑やかな毎日でした。今は、総務課で静かに仕事しています。
- A2 昨年は創立50周年を迎えました。このことは、社会に貢献され活躍されている卒業生や諸先輩教職員のご苦労やご尽力のおかげだと信じております。今後も100周年、200周年と学校がますます発展されますこと、期待しています。
- A3 今までやり残してきたこと（掃除？趣味？読書？旅行？）に取りかかろうと思っています。また、ボランティア活動を通して地域社会へ関わっていき、外から有明高専を応援していきたいと思っています。最後に、無事退職を迎え温かく見守っていただきました皆さま、そして家族へ感謝いたします。

一般教育科の坂西 文俊先生は、平成25年7月に退職されました。

(メッセージ: 突然の退職により皆様には多大のご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。また在職中はいろいろとありがとうございました。有明高専の益々の発展をお祈りいたします。)

## 永年勤続表彰

永年勤続20年の3名の先生方に、思い出などをお聞きしました。

Q1 20年間の一歩の思い出 Q2 20年前と今について Q3 学生に一言



電子情報工学科 准教授  
松野 良信

- A1** 一番の思い出となると、いろいろあつてちょっと難しいですね(^^)。上げて挙げるとすれば、平成9年(1997年)の高専プロコン長岡大会(第8回大会)で課題部門・自由部門・競技部門の3部門とも本選参加し、競技部門で優勝したのかな?
- A2** 20年前の有明高専はインターネットに間欠接続(UUCP接続)でした。1日に3回程度、電話回線経由で接続されるので、それまでに溜まっていた電子メール等がまとめて配送されていました。インターネットは常時接続かつ高速通信が当たり前となり、電子メールがすぐ届くのが当たり前になりつつある今では信じられないかもしれませんけど(^^;)。今やインターネットの代名詞とも言えるWebすら一般的じゃない時代でした。
- A3** 正直なところ私は「もう20年も経っちゃったの?」という感じです。年々、時間の過ぎる速さが増している気がします。学生のみなさんも卒業したらあつという間に時間が経過したと感ずるかもしれません。有意義に時間を使ってほしいなあと思っています。



物質工学科 教授  
富永 伸明

- A1** 20年前、私は米国の大学の博士研究員から、母校に採用されました。事情で家族を私より3か月先に帰国させたのですが、その間に当時1歳半の長男が私のことを忘れてしまいました。帰国後、私が父親だと思いきさせるのに一苦労したことはショックではありましたが、いい思い出です。
- A2** 私の研究分野では、いろいろな場面で写真が必要になります。1つのデータを取るために、フィルムをカメラに入れ、写真を撮りました。撮影後は、暗室でフィルムの現像、ネガから印画紙へ焼き付けという面倒な作業が待っており、学会前などは何日も暗室で作業するのが常でした。ところが、今ではデジタルカメラで簡単に取れ、パソコンでスライドへの加工も容易です。フィルムを目にするのもなくなったのは少しさびしいですね。
- A3** 社会が大きく変わってきました。将来を見据え、今しかできない、今やらなければならないことをよく考え、行動し、挑戦しましょう。



一般教育科 教授  
村田 和穂

クラス担任や吹奏楽部顧問としての思い出もたくさんあるが、「自分は一体誰(何者)なのか?」と自問するなら、今のところ「英語教師で英語研究者」と答える他ない。未だ道半ばであるが、この20年は英語を(多く)読み、書き、聴き、(少し)話す日々だったといえる。着任当初は「教師」と「研究者」は別々に考えていたところがあったが、この両者は、少なくとも私にとっては、相互作用の働きがあることがだんだん分かってきた。例えば、私の専門である、古い文献を調べて古い時代の英語の特徴を明らかにしようとする視点から、教室での現代英語の説明に多少のふくらみを与えることもあり、「故(ふる)きを温(たず)ねる」大切さを実感した。その一方で、学生の反応を通して、基本的な語彙や構文を分かりやすく説明しようとする授業の工夫が自分の研究にも多くのヒントを与えてくれた。学生に育てられた20年だったと、今、改めて思う。多くの人に支えられてここまで辿り着けたが、まずは私の拙い授業を受けてくれた全ての学生諸君に感謝したい。(※質問に対してまとめて答えます)

## 人事交流教員

今年度、人事交流教員として赴任された2名の先生方に1年間の感想を伺いました。



電子情報工学科 教授  
江頭 成人

有明高専が50周年という節目の時期にお世話になりましたので、この機会に大牟田市、荒尾市と久留米市の将来の人口を、卒業研究の学生とともに簡易予測しました。現在の人口はそれぞれ約12万人、5.5万人、30万人ですが、10年後にはそれぞれ約76%、87%、96%に、20年後には約53%、68%、86%に、30年後にはなんと約35%、50%、73%に減少するという結果が得られました。今後高専が75周年や100周年を迎えるには、地元からの入学者を外へ送るのではなく、外からの入学者を地元で就職してもらう手だてが必要であると気づかせていただきました。そして、有明高専ですでにその対策として、積極的な地元企業との共同研究や、地元で起業する取り組みなどが行われており、たいへん参考になりました。最後に、1年間という短い期間での人事交流に対し、温かく迎えてくださった教職員および学生の皆様に御礼を申し上げます。



一般教育科 准教授  
波止元 仁

一年間の短い間でしたが、有明高専では沢山のことを学ばせていただきました。高専により異なることが沢山あり、最初は驚きの連続でした。有明高専で行われている様々な取り組みを直に見れたことは貴重な体験でした。大変お世話になりました。有明高専で特に印象に残っていることは、学生の皆さんの元気のいいあいさつと体育祭です。体育祭での、学生の皆さんが一つに纏まって頑張っている姿は素晴らしいと思いました。そのひたむきな頑張りや、今後も勉強や部活動に活かしてほしいと思います。最後に、私を温かく迎え入れて大変良くいただきました一般教育科の教職員の皆様をはじめ、有明高専の教職員の皆様と学生の皆さんに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。また何かの折には宜しく願います。皆様のご健勝とご活躍を心から願っております。お体に気を付けて頑張ってください。

## 留学生

卒業を控えた留学生に、思い出などを書いてもらいました。



5A  
トウイナシコ・ジョナサン  
(ジェイ・ジェイ)

私は小さい頃から建築が好きで、特に住宅の模型を作ったりしていたことがきっかけで、建築士になりたいという夢ができました。私は世界中で活躍できる建築士を目指して日本に留学して、2011年に有明高専の建築学科に編入しました。その時、まだ日本語があまりできなくて、レポートも書けなかった頃でした。それでも建築の勉強を始めて、だんだんできるようになりました。その中で特に設計が一番好きです。そして、学生設計コンペで受賞することができました。有明高専にいるこの3年間成長したと感ずています。そして、私が遠いところから追いかけてきた夢に一つ近づいたと思います。この3年間、サッカー部、寮生活をはじめ、高専祭や体育祭に参加していい思い出をつくりました。また一方で、辛いこともありましたが、一番大事なことは、何があつても何よりも諦めないことと学びました。毎日高専坂を登り続けて、頑張りました。私の夢への道はこの3年間が坂道のようなでしたが、先生方や友達に支援していただいて、無事に卒業します。心よりみんなに感謝しています。有明高専で得た知識に加えて、卒業後進学する学校で頑張りたいと思います。日本、有明高専に来て良かったと思います。お世話になりました。ありがとうございました。

# 有明高専創立50周年記念式典

11月9日(土)午後、大牟田文化会館大ホールにおいて有明高専創立50周年記念式典が挙行されました。式典は、記念演奏会・記念式典・記念講演会で構成されました。

最初の演奏会では、柳川日吉太鼓による和太鼓、高崎裕士氏による津軽三味線の演奏が行われました。式典では、国歌斉唱、福島校長の式辞の後、文部科学大臣、高専機構理事長、九州大学総長、大牟田市長、荒尾市長からそれぞれご祝辞をいただき、校歌斉唱で幕をおろしました。その後、宇宙航空研究開発機構シニアフェロー・宇宙科学研究所教授の川口淳一郎先生による「『挑戦者たち』はやぶさプロジェクトの奇跡」という演題の記念講演がありました。

式典に先立ち、午前中には「米村でんじろうサイエンスプロダクション」のチャーリー西村氏によるサイエンスショーがありました。また、小ホールでは宇宙航空研究開発機構(JAXA)による宇宙展、小ホールホワイエでは地元企業パネル展示、2階展示室では専攻科2年生の特別研究発表会(ポスターセッション)が行われました。

記念式典終了後、場所をオームタガーデンホテルに移して記念祝賀会が行われました。



式典会場



式典校長式辞



式典会場入り口



記念講演



記念演奏会 三味線



記念演奏会 太鼓



進行役の51 東さん



サイエンスショー



サイエンスショー



宇宙展



宇宙展



専攻科ポスターセッション

## シンガポール・ポリテクニック校学生来校

12月8日(日)～17日(火)にかけて、本校が姉妹校協定を結んでいるシンガポール・ポリテクニック(SP)から10名の学生と1名の教員の皆さんが交流のため来校されました。滞在中、本校でのキャンパスツアー、研究室訪問、専攻科と本科の授業、球技大会、部活動体験、寮生との交流会などに参加しました。学外では、太宰府天満宮、熊本城、万田坑、阿蘇などの見学や陶芸教室での体験などを行いました。週末には本校学生の家でホームステイ(2泊3日)を体験しました。これらの行事の中で、本校の学生はSP学生と英語でのコミュニケーションを頑張っていました。SPの皆さんにとって、今回の来日が良い思い出となってくれたらうれしく思います。また、本校学生にとっても、SPとの交流は大変良い刺激になったことでしょう。

(国際交流委員会 河野 晋)



歓迎会



M科見学



C科見学



A科見学



5Cでの交流



6Z創造設計合同演習見学



華道体験



茶道体験



弓道体験



剣道体験



寮での交流



送別会

## 出前授業



M科(SPPロボット授業)



E科(クリップモーター)



I科(光実験)



C科(液体室素)



A科(紙ぶるる)



G科(液体室素)

今回は、電気工学科の池之上正人先生と物質工学科の大河平紀司先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

## 池之上 正人 研究室(電気工学科)

本校に着任されてから12年が過ぎようとしていますが、着任当時と現在とで一番大きく変わったことを教えてください。

着任時より体重が10キロ増えました。体重計の故障だと信じています…。

さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

「制御とモデリング」について研究を行っています。制御は我々の身の回りの様々な所で活躍していますが、うまく制御を行うためには、制御対象のモデリングが必要不可欠です。本研究では、データに基づくモデリング手法である「システム同定」について研究を行い、より正確かつ精度の高いモデリング手法の開発を目指しています。

研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

学生時代に制御工学という学問に出会い、研究を行う中でその理論体系に魅力を感じ、さらに研究を続けて行きたいと強く思うようになりました。制御理論の研究を通して社会に貢献したいと、自分の心に従って進んだ結果だと思います。

研究で心がけていることをお聞かせください。

「基礎を大事にすること。物事の本質を見失わないこと。」です。最近の国内研究の風潮として、「基礎研究・理論研究」よりも「具体的な実用化研究」が望まれているようですが、これからの日本が国際的に競争していくためには「基礎研究・理論研究」が必要だと思います。「基礎研究・理論研究」を大事にする人こそが、物事の本質を見失わず、本当の「応用研究」を行うことができていると思っています。

新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

現代は、人々が発信する情報・自然界から得られる情報・人工物から得られる情報など、あらゆる情報で溢れています。これらの情報は大規模かつ多様性に富んでおり、このビッグデータをどのように取扱うのか、どのようにして意味のある情報を抽出するのか、ということが、今後とても重要な課題になると考えています。ビッグデータに基づき、スマートグリッドの電力ネットワークなど、様々な対象のモデリングを行いたいと考えています。

最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

どのような道に進むのが正解なのか、誰にもわかりません。しかし、自分の選んだ道が正しいと信じることはできます。今、一生懸命取り組んでいる「すべて」のことが将来何らかの形で自分の幸せに繋がっていくと信じてください。

## 大河平 紀司 研究室(物質工学科)

佐世保高専ご出身とのことですが、佐世保高専と本校との一番の違いを教えてください。

同じ高専ということで、校舎の作りや雰囲気非常に似ているため色々な場面で母校のことを思い出しますが、大きな違いは2年次の混合学級の有無だと思います。他学科の学生と仲良くなれる機会に恵まれている本校の学生は、将来のことを考えると幸せだと思います。

さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

私達や菌類の体内で働く「酵素」がありますが、この酵素は基質特異性(鍵と鍵穴の関係)を有しています。つまり、ある特定の物質としか反応しません。この酵素をポリエチレン等の人工材料に固定化することで、ある特定の有用物質の生産、または有害物質の除去といった工業利用に関する研究を行っています。また、コンピュータを利用して分子の構造や反応を研究する計算化学も行っています。

研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

大学院の修士課程を修了した後、北九州市立大学の技官に着任したのですが、そこで知り合った教授から「プロジェクトの研究員にならないか」とお誘いを受けたことがきっかけです。これが私の人生の分岐点でした。全く知識の無い状態で計算化学を担当することになり、死に物狂いで勉強して身につけた結果、色々な視点から物質の構造や現象を理解できるようになり、研究の楽しさや奥深さを知ることができました。

研究で心がけていることをお聞かせください。

一番心がけていることは論文や学会等での情報収集です。化学は常に進化し続けるものですので、一度遅れると追いつくまでかなりの時間がかかります。また、自分が知らなかった知識を得られると研究の幅も広がります。あとは人との繋がりがです。自分だけでは解決できないことも、共同研究者や協力者がいると、解決できるどころか更なる発展に繋がったりします。

新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

今は時間的に現在の研究や校務でいっぱいですが、落ち着いたら理論(計算化学)と実験の両手法から新しい領域の研究ができればと思っています。

最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

私が今こうして教員になれているのは、人との繋がりを大事にしてきたからだと思っています。皆さんの人生の中で、選択に迫られる場面が必ず来ます。例えば、私であれば研究員になるかならないか、でした。自分の選択が必ず正しいとは限りません。でも、苦しい時に一緒に頑張ってくれる人が周りにいると何とかなるものです。人との繋がりは、かけがえのない財産であり人生の糧だと思います。あと、今、その時を精一杯楽しんでください。将来、楽しく話せる高専時代の仲間がいることは、必ず皆さんに幸せをもたらしてくれるはずですよ。



今回の企業訪問ではNTTコムウェア九州株式会社にお邪魔しました。ここでは、大淵喜子さん(14期)、真弓恵梨さん(15期)、上妻真也さん(16期)、原翼さん(17期)、下河希恵さん(18期)、山田優太さん(専攻科8期)と、電子情報工学科の卒業生が大勢働いています。出張やお仕事の都合で、真弓さん、原さんのお二人にお話を伺いました。

森: はじめに、この会社の事業内容について教えてください。

真弓: NTTグループで使われているシステムの開発をしています。東京の本社から、料金システムや交換機の通信システムの発注を受けて設計製造や試験などを行っています。

森: それでは、お二人が実際に携わっている仕事の内容について教えてください。

真弓: 電話の新規契約やサービスの変更、廃止工事について、交換機に対して新規ユーザの通信を可能にしたり、古い交換機から新しい世代に寄せかえをしたり、現場で通信処理ができるようなシステムを作っています。

原: NTT西日本のフレッツ光について、個人や法人のお客様からの開通要求から工事完了まで、料金や実際のネットワークを管理するシステムを作っています。

森: なかなか難しそうなお仕事ですね。では、この会社を志望した理由は何だったのでしょうか?

真弓: もともとシステム開発(SE)の仕事を探していました。そして九州内で仕事がしたいということと、NTTの関連会社であることで志望しました。

原: 私も九州内で就職しようと考えていて、実際に会社を見学して、先輩(大淵さん)にお話を伺って、あまり大規模でなく社員全員の顔がわかるような職場ということで決めました。

森: 職場見学と先輩の話が決め手だったということですか。最初に就職した大淵さんの存在が大きかったみたいですね。それでは、これまで働いてきて印象に残っていることはありますか?

真弓: 就職して3年目くらいから、お客様と直接話して調整するために、東京本社に出向いたことです。品川や幕張へ6か月の出張が2回ありました。そしてちょうどこちらへ戻る日に3月11日の震災が起きたのですが、なんとか無事に帰ってくることができました。

原: 普段は既存のシステムを改善することが多いのですが、3年目にシステムを一新する大規模な開発を行い、今までにやっていない新しいサービスに対応するために、新しいシステムとの連携を1人で担当したことです。かなりきつかったのですが、周囲の方の協力でやり遂げることができました。

森: やはり3年あたりがひとつの節目で、本格的な仕事を任されるようになるみたいですね。では、高専生活で役立っていることはありますか?

真弓: データベースなどは、高専で使っていたテキストを見直すことがあります。仕事をしながら勉強するのは大変なので、単語を聞いたときに「あの授業で使ったな」ということを思い出せるのは大事ですね。文系出身の方はものすごく苦労されているので、高専の卒業生で良かったと思います。

原: プログラムの知識は役に立っています。下請けの会社さんに対して、どういう風にプログラムを考えるか、きちんと伝えることができます。働き始めると、授業で習ったことが今になって分かることが多いです。テストのために覚えたことが頻繁に出てきます。

森: それは在校生にとっては自信がもてる言葉ですね。後輩たちにメッセージはありますか?

真弓: 会社に入ったら自由になる時間は少なくなるので楽しむ時間も必要ですね。

原: 社会人になると仕事関係の付き合いが多くなるので、高専時代のつながり、友達は大事にした方がいいです。今でも何人かで年に2、3回は集まっています。

森: 最近は就職してもすぐに辞めてしまう卒業生も多いようですが・・・

真弓: 仕事で大変なことも多いですが、3年くらい頑張ると、これが得意だということがわかってくると思います。

原: 今の職場は福利厚生が良くて、女性にとっては産休・育休からの復帰もでき、優しい人が多く、恵まれていると思います。たとえ失敗したとしても、それまでに築いてきた人間関係がしっかりしていれば仕事は続けられると思います。

森: わかりました。壁にぶち当たることはどんな仕事でもあると思いますが、それを乗り越えるヒントも伺うことができました。今日会えなかった皆さんにも頑張るように、よろしくお伝えください。本日はどうもありがとうございました。



左から原さん、真弓さん

## ロボコン地区大会を振り返って

4M 井上 優人



私は有明高専Aチームのチームリーダーとして今年のロボコンに参加しました。4月末に競技ルールが発表されてから大会当日の10月6日までチーム一丸となってロボット製作に努めてきました。大会では準優勝を勝ち取ることができましたが、全国大会への出場は逃してしまいました。

毎年のことですが有明高専のロボットは他高専と比べ構造のつくりが甘いところが多々あります。簡単に言うと他高専は「勝ちに行けるロボット」を製作しているのに対し、有明高専は「試合のできるロボット」しか製作できていないところなんです。そこから抜け出さなくては試合をすることはできても勝ちはありません。来年のロボコンルール発表まで約半年あります。部としてやるべきことも沢山あります。それまでに私ができることを考え行動したいと思います。



3M 上田 陸

今回は2体のロボットと人間がコラボし縄跳びをするという内容でした。

本番開始。胸をおどらせながら迎えましたが、突然のマシントラブルで動かすことができませんでした。直前までの調整では正常に動作していたのに。ロボコン会場には魔物がいる…はちょっとオーバーかもしれませんが。

部員全員で考え、工夫し、調整し、プログラムしながら作ってきたロボットです。前日の深夜まで検討と調整を重ねました。しかし、結局動かすことができずに初戦敗退。残念でした。とても悔しさの残るロボコン大会となりました。今回の反省点(アイデア立案から大会当日までのスケジュール管理、製作・制御の作業バランスなど)は多くありましたが、とても良い経験になりました。審査員の方々にはアイデアを評価していただき、安川電機特別賞を受賞することができました。今の私たちには十分すぎる賞だと感じます。今回の経験と後輩たちへの指導を含め、これから日々頑張りたいと思います。応援ありがとうございました。

## プロコン【競技部門】

4I 山口 賢二

前回の有明大会から一年。新たに発表されたテーマは再び、会場を賑わせたあの「サイコロ」と知り、非常に驚きました。

今回の競技部門のコンセプトは情報通信。与えられた文字列をサイコロに置き換えて配置し、写真でそれを送信。受信側で解釈・復号せよというもので、予選では暗号化+圧縮、配置・画像処理、復号の3段階の通信草案を提出し、無事通過することができました。圧縮処理においては、圧縮前にデータ列を加工し、記号の出現確率を一方へ偏らせて、エントロピー圧縮の効率を高める処理を行っていましたが、いざ実行すると復号の際これを完全に復号できず、一定の誤りがどこかで起きてしまい、原因の追究・改善が至らないまま本選当日になってしまい、残念な結果に終わってしまったのが心残りです。

今回のプロコンでは、情報通信における基本的な要素を体で学べただけでなく、綿密な設計や計画、意思疎通の重要性を痛感することができ、大変いい勉強になりました。

今後の卒研や就職後においても、この経験を糧に、更に精進していこうと思います。



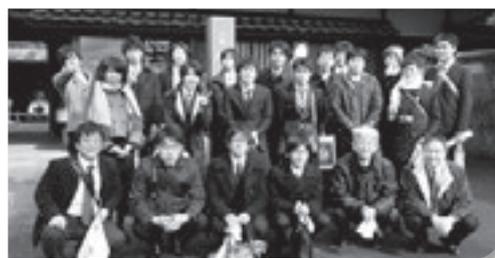
中央が筆者

## 専攻科研修旅行

6E 月足 仁紀

11月27日(水)から28日(木)の2日間、私たち専攻科1年生は研修旅行に行きました。この旅行の主だった目的地は京セラ鹿児島川内工場、濱田酒造株式会社、仙巖園です。今回、一番印象深かった仙巖園について話をさせていただきます。仙巖園はかの薩摩藩主島津家の別邸跡であり、桜島が美しい広大な庭園とその一部は大河ドラマ「篤姫」の撮影にも使われたことで有名です。感想ですが、特に楽しみにしていた庭園は雨上がり直後の澄んだ空気の助けもあり、桜島がよく見えとても綺麗でした。そして、庭園のすぐ近くにある、島津家別邸を案内するツアー(500円)がとても良かったです。案内してくれるガイドさんの話はとても面白く、ためになるものでした。また、ツアーの最後にはなんとお茶とお菓子が用意されており、とても美味しかったです。ただお菓子は癖があるためお勧めはできないかもしれません。私は好きですけども。

最後に今回、省略しましたが工場見学もとてもためになるものでした。未来の専攻科生は楽しみにしてください。



## デザインコンペティション全国大会を通して

6A 松尾 橋花

私は「全国高等専門学校デザインコンペティション2013 in 米子」の環境部門に出場しました。今年の環境部門は「もっと豊かな湯のまち」というテーマで、米子市皆生温泉の活性化案の提案に取り組むものでした。本選では予選通過者を混成して6つのチームをつくり、事前交流や2泊3日のワークショップを通してプレゼンテーションをするという今までにない新しい試みがなされました。

実際に皆生温泉の街歩きをしてみると「人気が少ない」、「風俗店の引き込み」などの諸々の課題を目の当たりにしました。そのため、私たちのチームは現実性と皆生温泉らしさを重視したプレゼンテーション作成を行いました。魅力的なアイデアがたくさん浮かぶ中、中間発表で審査員長の山崎先生からいただいたアドバイスは「的を一つに絞れ」でした。そこで、私たちは鳥取の特産であるカニに注目し、カニ殻肥料づくりを通して、旅館・地元住民・観光客のつながりをつくる提案を行いました。その結果、最優秀賞にはあと一步届きませんでしたが、優秀賞をいただくことができました。

今回のデザコン本選を通し、まちづくりに関して多くのことを学ぶことができました。そして、他高専の方との交流という貴重な体験ができたこともとても嬉しく思います。この経験を今後の学生生活、そして社会で役に立てていきたいです。



## デザインコンペティション2013 in 米子 構造デザイン部門

3A 兵藤 安季紗



今年度の全国大会の構造デザイン部門では、400g以下の木製の4点支持構造物の耐荷力、比強度、予測耐荷力、独自性や美しさを競う競技が行われました。私たちのチームは寄棟屋根の形をヒントに構造物を作製して、載荷試験を繰り返しながら、改良を重ねて、大会に臨みましたが、出場61チーム中、45位という結果に終わりました。

全国大会の壁を前にして、自分たちの実力不足を痛感しました。他の出場チームの構造物から色々な刺激を受けた有意義な時間となりましたが、限られた時間の中で最善を尽くすことができなかつた悔しさも残っています。もし、来年度も参加することができれば、次こそは納得のいく構造物を作製して、ベストな状態で臨みたいと思います。

参加することができて良かった、そう思えた全国大会でした。

## 冬季球技大会

体育局長 2M 西嶋 涼平

12月13日(金)に、冬季球技大会が開催されました。残念ながら雨となり、雨天時競技であるバスケットボール、バレーボール、女子バレーボール、卓球の4競技が行われました。上級生はこの日のために半年近く練習しており、雨天時競技ではありましたが練習の成果がクラスの団結力となって現れ、全てを出しきった素晴らしい試合になったことと思います。また、本科生だけでなく、専攻科生、教職員やシンガポールポリテクニクの学生たちにも参加していただき、下級生に容赦しない白熱した試合がたくさん観られました。

そのような中、今回は、出場できる部員数に制限のない1年生がダークホースとなりました。上級生相手に次々と勝ち上がっていく1年生クラスが現れ、予想外の展開に大いに盛り上がりました。

ちょっとしたトラブルもありましたが、クラスの交流が深まる素晴らしい大会にすることができました。

昼ごろから晴れたことが一番悔やまれますが、4年生以下はこれからまた練習を頑張つて、次の球技大会を盛り上げてほしいと思います。今回の成績は以下の通りです。

【雨天時競技】



最優秀クラス	4E	
優秀クラス	5E	
	優勝	MVP
バスケットボールA	5C	前田 竜騎
バスケットボールB	4E	隈本 匠
バレーボール	1I	石田 拓也
女子バレーボール	3C	江島 見佳
卓球	4E	原口 樹一



今回、新学生会会長に就任しました4A堤大智です。

この度、皆さんの支持のおかげで会長に就任することができ、大変嬉しく思っています。一方で、学生会長としての責任の重さを感じています。前年度は報道局長として、学生会活動を行ってきました。その中でリーダーとしての在り方や心構えなど、多くの経験を通して多くのことを学び、考えてきました。そこで今年度は、これらの経験を生かし、学生会役員一人ひとりが学生のリーダーとなり得る学生会をつくっていきたくと考えています。そのために、「当たり前のことを当たり前にする」の育成に努めていきます。

さて、数年前から問題となっている校内・学校周辺のゴミの問題は現在も続いています。このゴミ問題は結果的に売店の販売品目の制限に繋がっています。誰もが満足できる学校生活をおくるためにはルールが必要不可欠です。このルールを守るという行為も「当たり前のことを当たり前にする」ということに繋がっていると思います。学生一丸となって改善していきましょう。ご協力よろしくお願いします。

最後になりましたが、今年度の学生会は昨年度よりも多い、総勢53名で活動していきます。少しでも学校生活を良くするため、一人ひとり精一杯頑張っていきます。よろしくお願いします。皆さんで有明高専を良くするためにも頑張ってください。



## 平成26年度 学生会新役員

会長	4A	堤 大智		
副会長	4I	中田 竣	3M	今村 匠
体育局	2M	西嶋 涼平 (2-2)	2M	光延 拓也 (2-5)
	2M	山村 幸大 (2-3)	3M	中村 匠吾
	3E	大塚 絢貴	3E	齋藤 孝一
	3E	中村 圭祐	3E	福崎 健介
	1M	奥園 善仁	1M	恒吉 いづみ
	1A	馬場 智章		
放送局	4I	日高 大成	3I	中嶋 智保
	3C	野田 望由	2I	溝口 越司 (2-2)
	1I	堤 愛美	1I	芳仲 正
文化局	4A	青嶋 嵩	2M	川口 元貴 (2-2)
	2E	西村 アロン(2-4)	4E	今村 悠太郎
	2A	伊藤 大貴 (2-2)	1M	川口 拓真
	1C	田中 玲偉		
会計局	4I	安部 成就	3M	江上 俊
	3A	吉山 玲奈	2I	荒木 涼 (2-4)
	1I	坂田 日明		
渉外局	4E	小田原 裕	3M	西久保 友紀
	2A	川西 智大 (2-1)	4E	廣吉 慎吾
	2A	古賀 涼華 (2-5)	1E	柿原 奨
報道局	4A	森 康貴	4M	加藤 寿大
	4E	木下 溪太	3M	西津 優太
	2I	新垣 淑陽 (2-3)	2A	北口 修伍 (2-2)
	2A	島田 恵豊 (2-1)	1I	山田 達郎
	1C	宮原 萌衣		
整美局	4M	竹下 雄貴	4M	堤 翔太
	3M	高尾 晃平	2E	池上 天翔 (2-5)
	2A	南里 泰之 (2-2)	1M	武藤 正明

## 学生会役員研修

## 放送局長 4I 日高 大成

12月7日(土)に、新旧の学生会役員14名と学生主事室により、学生会役員研修が行われ、今後の学生会の方針について話し合いました。はじめに旧局長から一年間の反省点や新学生会への要望が伝えられた後、新局長からは抱負が述べられ、新旧学生会の引き継ぎを行いました。また、あいさつ運動、学生会の定例会、新規役員の振り分けなどの議題について、新学生会会長4A堤君を中心に話し合いました。

あいさつ運動については、実施期間や参加人数、また、どのような目標を持って実践していくのかということについて意見交換を行い、あいさつ運動の今後の方針について決定しました。

定例会については、開催する頻度や話し合いが必要な議題について検討しました。学生会行事を円滑に進められるように、かつもっと楽しめるものにするために、またそれだけではなく、よりよい学校生活が過ごせるように、学生会として何ができるのかなど、今後、様々なことを定例会で話し

合っていきたくと思います。

その後、平成26年度の学生会行事予定を確認し、日程の決定を行いました。

学生主事室からは、学生会が中心となり学校全体を動かしていけるよう頑張ってくださいとこれからの新学生会に向けて激励の言葉をいただきました。

今回の研修会の総括として、たくさんの議題について話し合うことができ、充実した時間を過ごせたように感じました。新学生会の団結力が高まった、いい研修会だったと思います。



寮長挨拶

4M 末永 舜



こんにちは。新しく寮長になりました4年機械工学科の末永舜です。昨年までは指導寮生、副寮長をやっており一番身近に寮生会活動を見てきましたが、これまでの寮生会は自発的な活動が殆ど無く主事室の先生方におんぶに抱っこでした。自分の目標としては自主的に動ける寮生会が作ればいいなと思っています。

また、ここ最近寮生はどんどん学力が下がってきています。幅広く人と交流できるのが寮の良い所ですが、友達が近くにいるが故に、つい勉強そっちのけで遊んでしまう人たちが多く見られるようです。寮生の学力向上の為にもよりよい環境で寮生活が送れるように、たくさんの意見を取り入れ問題点は皆で一緒に改善できるよう、精一杯努力していきますので一年間よろしくお祈りします。

予餞会(5年寮生送別会)

岱明寮では5年生の卒寮(予定)を祝って、1月18日(土)に恒例の予餞会(送別行事)を開催しました。これまで食堂で予餞会を行っていましたが、寮生数の増加から、初めて第一体育館で実施を試みました。昨年は、インフルエンザ流行により開催することができなかつたため、2年ぶりの予餞会となりました。第一部では、福島校長先生から5年寮生に対するはなむけの言葉をいただき、寮長の末永君と5年代表の坂井君からあいさつがあった後、校長先生か

ら坂井君へ記念品贈呈が行われました。第二部では、若葉棟、青葉棟、桜棟の1年生と2年生の5グループによる寸劇と卒寮生から在寮生へ向けてのスピーチが交互に行われました。寸劇の最優秀グループと最優秀演技者に賞品が贈られ、参加者全員による万歳三唱で閉会となりました。5年生の皆さん、卒寮(予定)おめでとうございました。岱明寮での生活は皆さんの人生の大きな財産となることでしょう。今後の活躍を祈念します。



中央で挨拶する末永君と両脇のSP



MVPの西嶋君(右)



劇 白雪姫を演じる桜棟1年生たち

テーブルマナー講習会

寮生の食事でお世話になっている魚国総本社から講師をお迎えし、卒業を控えた5年生を対象に洋食のテーブルマナー講習会を12月1日(土)に修己館にて開催しました。講習会では、食事のマナーに加えて社会人としてのマナーも教えていただきました。成人を迎える5年生にとって、有意義な講習になったと思います。



寮生会役員

(平成26年1月22日現在)

- 寮長 4M 末永 舜
- 副寮長 3M 山田 凌太
- 副寮長 3C 佐藤 奏月
- 棟長
- 銀杏棟 4M 森岡 佑介
- 紅葉棟 3I 中山 卓也
- 青葉棟 2M 尾上 朋洋
- 若葉棟 4M 末永 舜
- 桜棟 3C 佐藤 奏月

- |         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 局名      | 局長        | 局員        |
| 会計      | 4I 大西 雅也  | 3C 國松 宏一郎 |
| 整理      | 4M 大田 敬大  | 3E 山下 祐侍郎 |
| 報道      | 4I 日高 大成  | 3M 田中 優策  |
| 給食      | 4A 小山田 志輝 | 3A 緒方 敬一  |
| 管理      | 4M 加藤 寿大  | 2M 西嶋 涼平  |
| 娯楽      | 4M 森岡 佑介  | 4M 宮崎 勝三  |
| 若葉棟指導寮生 | 4M 末永 舜   | 4C 江副 さき  |
|         | 4M 大田 敬大  | 4A 衛藤 優希  |
|         | 4M 宮崎 勝三  |           |
|         | 4E 原口 樹一  |           |

- |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|
| 3A 吉山 玲奈 | 2C 田竈 聖夜 | 2C 畑島 晴樹 | 1A 松田 郁哉 |
| 2C 木戸 可純 | 2A 松永 佳奈 | 2A 太田 早紀 | 1A 内山 翔太 |
| 3I 緒方 瑞月 | 2A 松永 佳奈 | 2A 太田 早紀 | 1A 内山 翔太 |
| 2C 有働 紗里 | 2A 太田 早紀 | 2A 野崎 朱梨 |          |
| 2A 松永 佳奈 | 2A 野崎 朱梨 |          |          |

\*男子棟長・指導寮生は26年3月まで



## 第45回有明高専吹奏楽部定期演奏会を終えて

4A 井上 安南

たくさんの企業の方、保護者の皆様、先生方のご協力で第45回有明高専吹奏楽部定期演奏会を無事に開催することができました。ありがとうございました。

今回の演奏会では、それまで順調に進んでいたのに演奏直前のリハーサルで全員の音がなかなか合わずに、とても不安になったこともありました。しかし、演奏会本番では練習やリハーサル以上にうまく演奏ができ、悔いなく演奏会を終了することができました。今回の演奏会のテーマは「道」でしたが、これから後世に続いてゆく「道」を1つ切り開けたのではないかと思います。反省すべき点はたくさんあるのできちんと反省し、来年の演奏会につなげていきますので来年度も有明高専吹奏楽部をよろしく願います。

今回演奏会にご来場いただいた皆様、また応援して下さった皆様に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 演算増幅器設計コンテスト入賞

専攻科情報システム工学専攻1年の古賀圭祐君と電気工学科5年の江中祐貴君が応用科学学会主催の平成25年演算増幅器設計コンテ



古賀君

江中君

スト・シミュレーションの部で入賞されました。古賀君は部門1で5位、部門4で4位、江中君は部門2で7位でした。高専専攻科・本科で入賞したのは有明高専だけでした。

## 建築設計競技で入賞 A科 鎌田 誠史

11月26日(火)にキャナルシティ博多で行われた「平成25年度福岡県内高等学校生並びに専門学校生による建築設計競技」の優秀作品表彰式(福岡県建築士事務所協会主催)に本校から、3Aの椎原奈央さん(会長賞)、青田興明君(支部長賞)、牛島美夏さん(銅賞)、舎川誠太君(銅賞)、5Aのトウイナマシコ・ジョナサン君(佳作)が参加しました。福岡県事務所協会会長から表彰式に参加した学生に向けて激励の言葉をいただきました。これを励みにさらなる設計活動など頑張ってくださいと思います。



## 3年生進路支援セミナー

進路支援室長 上原 修一

学生の進路設計に関する動機付けや職業意識の向上をはかるため、平成25年11月5日(火)、3年生の各教室において進路支援セミナーが開催されました。各学科の卒業生を講師にお招きし、講演をしていただきました。後輩の3年生に対して熱く語っていただきました。



M科 原田 義史 氏



E科 中溝 栄次郎 氏



I科 遠藤 剛 氏



C科 中島 康宏 氏



A科 江藤 均 氏

## 編集後記

広報室 八頭司 由紀

早咲きの桜も咲はじめたころ、皆様いかがお過ごしでしょうか。

平成25年は有明高専創立50周年という記念すべき年となり、記念行事では地域の方にもご来場いただきました。私が担当していた宇宙展では子どもたちが目を輝かせてロケットをみたり、宇宙服を着たり、大人でもやはり興味津々で説明を聞き、関心されていました。

これから有明高専を巣立っていく皆様の進路先は様々かと思いますが、将来地域の人をわくわくさせるような仕事を成し遂げられることを願っています。そのためにも、これからもたくさん遊び、学んでいってください。

有明高専で友人、先生方と過ごした時間が将来実を結びますように。

有明高専だより 第142号

平成26年2月19日

編集：有明高専広報室

発行：有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

http://www.ariake-nct.ac.jp/

花咲く技術を-Here are Lights-



創立50周年(2013)